

学校において予防すべき感染症の種類及び出席停止期間の基準（H27. 1. 21～）

種	病名	出席停止期間	
第一種	・エボラ出血熱	治癒するまで	
	・クリミア・コンゴ出血熱		
	・痘そう		
	・南米出血熱		
	・ペスト		
	・マールブルグ病		
	・ラッサ熱		
	・急性灰白髄炎		
	・ジフテリア		
	・重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)		
	・中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)		
・特定鳥インフルエンザ			
*感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第7項から第9項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症			
第二種	・インフルエンザ (特定鳥インフルエンザを除く。)	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日（幼児にあっては、3日）を経過するまで。	限れの* りが他た でなのだ ない医し 。師に、 認め病 お状に たにより とき感 は、染学 の校 こお医 のそそ
	・百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。	
	・麻疹	解熱した後3日を経過するまで。	
	・流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。	
	・風しん	発しんが消失するまで。	
	・水痘	すべての発しんが痂皮化するまで。	
	・咽頭結膜熱	主要症状が消失した後2日を経過するまで。	
	・結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。	
・髄膜炎菌性髄膜炎			
第三種	・コレラ	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。	
	・細菌性赤痢		
	・腸管出血性大腸菌感染症		
	・腸チフス		
	・パラチフス		
	・流行性角結膜炎		
	・急性出血性結膜炎		
・その他の感染症	*条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる感染症		

*第一種若しくは第二種の感染症患者のある家に居住する者又はこれらの感染症にかかっている疑いのある者については、予防処置の施行の状況その他の事情により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。

*第一種又は第二種の感染症が発生した地域から通学する者については、その発生状況により必要と認めるとき、学校医の意見を聞いて適当と認める期間。

*第一種又は第二種の感染症の流行地を旅行した者については、その状況により必要と認めるとき、学校医の意見を聞いて適当と認める期間。

*第三種「その他の感染症」は、学校で通常見られないような重大な流行が起こった場合に、その感染拡大を防ぐために、必要があるときに限り、校長が学校医の意見を聞き措置を取ることができる感染症。